

唐津市立鬼塚中学校 学校だより

学校教育目標

感動 感謝 思いやり

～支え合う生徒 支え合う先生 支え合う学校づくり～

令和2年 3月24日発行 NO. 16

文責 校長 中村 数寛

第73回卒業証書授与式を挙行了しました

3月7日（土）、第73回卒業証書授与式を挙行了しました。元号が令和に変わり初めての卒業式でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、在校生、ご来賓の皆様方には、参加をご遠慮いただき規模を縮小した形での卒業式となりました。何よりも卒業生の皆さんや保護者の皆様方には、ご理解のうえご協力いただきましたことに深く感謝を申し上げます。また、山口育友会長様には、ご来賓を代表してご臨席を賜り、激励のお言葉を頂戴しました。校長式辞の中では、卒業生に向けて「感動 感謝 思いやりの心を軸にすること」と「新しい自分をつくるためにチャレンジする心を持つこと」をはなむけの言葉として贈りました。規模縮小の異例の卒業式にもかかわらず、卒業生の凛とした姿と保護者の皆様方や先生方の温かい雰囲気にもかかわらず、卒業生の凛とした姿と保護者の皆様方や先生方の温かい雰囲気に包まれ、厳粛な卒業式を挙行することができました。在校生の皆さんと感動を共有できなかったのは非常に残念でしたが、岩本総司さん（2年生）の送辞と中村征史さん（3年生）の答辞の全文を掲載しますので、思いを馳せながらご一読いただければ幸いです。



【卒業証書授与・呼名の様子】



【送辞の様子】



【答辞の様子】

岩本総司生徒会長による在校生代表の送辞（全文掲載）

冬の寒さも和らぎ、松浦川の岸辺に咲く菜の花が、春の訪れを告げる今日、たくさんの思い出を胸に鬼塚中学校を巣立っていかれる卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同心よりお喜び申し上げます。

体育大会では、短い期間の中で練習を重ね、夏休みの間に応援やバック絵を完成されていたのには驚きました。それに満足することなく、さらに必死で練習されている姿に、行事を成功させるだけでなく、生徒全員がより楽しく、夢中になれるものにするために、学校全体のことを考えながら動くということの大切さを教えていただきました。文化発表会では、美しく、迫力のある歌声で学年合唱を披露して下さいました。体育館に響き渡ったあの歌声に、私達は、大きな感動を覚えました。また、3年生の劇「戦争は終わらない～原爆詩集からのコラージュ～」では、先輩方のエネルギーあふれる演技に圧倒されました。背景に使用されたスタンドグラスの制作物も、とても美しく、劇中の雰囲気を盛り上げていました。この劇を通して、私達は平和の尊さを改めて感じるとともに、最高学年としての皆さんの本気とプライドを見せていただいたような気がします。

今、皆さんは胸に夢と希望を抱いて、新しい世界に羽ばたこうとしています。これからの道のりは、平坦なものばかりではなく、時に辛いことや苦しいこともあるでしょう。しかし、皆さんには仲間がいます。この鬼塚中学校で3年間を共に過ごした仲間です。仲間という最大の味方を支えに、どうか夢と希望を絶やすことなく、素晴らしい人生を歩まれますことを、在校生一同お祈りしております。私達在校生も、皆さんが築かれた鬼塚中学校の素晴らしい伝統を守り、受け継ぎ、悔いのない学校生活を送るために一層努力することをお約束いたします。

最後に、卒業生の皆さんにお願いがあります。卒業後も時には母校を訪ね、元気な姿をお見せください。お待ちしております。卒業生の皆さんの、ご健康とご活躍を心から記念し、在校生代表の送辞とします。

中村征史前生徒会長による卒業生代表の答辞（全文掲載）

591日。これは、私達が出会ってから今日まで、共に過ごした時間です。何気なく過ごしてきたその日々には、かけがえのない思い出が詰まっています。今年は、暖冬の影響か肌を刺すような冷たい冬の日あまりなく、それでも柔らかな日差しに春の訪れを感じるようになりました。私達は、多くの人に支えられこの日を迎えられました。すべての人に感謝しています。

3年前の4月。入学した時は、今の校舎ではなく仮設校舎でのスタートとなりました。中学生という初めての環境。初めての先生や仲間、周りは知らない人もいて不安と緊張が入り混じっていました。しかし、新たな希望にわくわくしていた1年生でした。何をどうすればいいのかわからないままに、数々の行事をこなしていく中で、お互いに少しずつ仲間と打ち解けることができました。この年から落ち着いた学校生活を過ごそうと「立腰」が始まりました。集団生活のけじめとして初めての経験でした。また、部活動において、3年生の存在が大きく見えました。ひとつひとつの動きの力強さ、お互いに切磋琢磨し合っている姿は、憧れるほどの格好良さでした。先輩として一歩を踏み出し、責任感を感じ始めた2年生。「職場体験」では、仕事の大変さや社会の厳しさを学ぶことができました。責任感や自主性・協調性を学び、人として成長することができました。

学校の中心となって、数々の行事や生徒会活動を支えた3年生。「修学旅行」では、知覧特攻平和会館を見学。特攻隊員の愛する家族への思いが綴られた遺書を目にして、戦争は何を残したのか、平和とは何なのか、現地でしか知ることのできない戦争の悲惨さに心を締めつけられました。ホテルでの平和学習。一人ひとりに送られた自分の家族からの手紙を読みながら、涙する友もいて、今自分が生きていることへの喜びと感謝を感じました。鹿児島島の文化や風土を知ろうと計画した班別行動では、自己中心的なメンバーもいて、トラブルが起こったり、集合時間に間に合わなかったりと、まとまりのない様子が見られました。でも、これまで培ってきた「絆」で乗り越え、自己を見つめ直すきっかけとなりました。まとまらない学年。「体育大会」や「文化発表会」で、自分は、生徒会長としてどんなリーダーシップを発揮していけばいいのかわからず不安でした。「体育大会」では、実行委員会を組織し、大会を成功させるために話し合いました。応援リーダーの中でもまとまらず、たくさんのトラブルが発生しました。しかし、汗を流して練習に励み、必死に頑張っている姿から団が結束し、大会成功の成果を収めました。大会当日も全力で悔いが残らないパフォーマンスができたのも、3年生の団結力と1・2年生の支えがあったからだと思います。「文化発表会」、学年劇「戦争は終わらない」は、参観された保護者や地域の方々には大きな感動を与えました。劇を演じた仲間、背景を制作した仲間が、ひとつになって作り上げた劇。伝えたいことが観ている人たちに伝わるようにと厳しくも丁寧に指導をしていただきました。また、学年合唱やクラス合唱は、練習を重ねてきましたが、なかなか納得のいく合唱には届きませんでした。でも、練習を積み重ねたことで、仲間との心のまとまりが生まれ、誰もが驚く程の合唱を披露することができました。多くの困難を乗り越えて作り上げてきた数々の取り組み。かけあう言葉は違って、共に温かく仲間のありがたさを感じました。「やればできる」をキーワードに何事にも挑戦していきたいと思います。

風のように過ぎ去って行ったこの3年間も今日で終わります。先生方、私達を支えて下さり、ありがとうございました。友達のように笑い合い、寄り添い、楽しい時間を過ごすことができました。時に厳しく指導をしていただき成長することができました。これからの日々の中にそのような時がないと思うと寂しくなります。今まで過ごしてきた日々を、先生方から学んだことを忘れません。私達のことを第一に考え、一番近くで応援してくれた家族、ありがとうございました。冷たくあたって嫌な思いをさせたこともありました。まだ、大人になれない私達は、家族の支えなしでは、生きていくことはできません。大切な家族、これからもよろしくお祈りします。

まだ、3年生の皆さんと一緒にいたい、笑っていたい、けれど、私達はそれぞれ目の前の扉を開いて、前に進んでいかなければなりません。色々な経験をしてきた93人の特別な仲間。

私達は、勇気を持って歩みだします。



【3年生の歩みを、写真にて管理棟の掲示板で紹介】